

令和2年6月15日(月) No.449



グリットを高め いつも仲間とともに 夢のある学校

# 里中だより

川口市立里中学校  
川口市里621番地  
Tel. 048-282-5708  
さわやか相談室 284-1010  
1年201名 2年212名 3年176名  
<http://www.sato-chu.com/>

「グリット」は才能を越え、大きな結果を出す

校長 荻上 晃司

5月25日に緊急事態宣言が解除され、6月1日から学校も再開となりました。6月1日に2・3年生始業式、2日に入学式を実施しました。改めまして、お子様のご入学並びに進級おめでとうございます。

保護者の皆様には、臨時休業に伴い3月から長期にわたり、お子様の健康管理をはじめ家庭学習の支援等、様々なお力添えをいただきましたことに深く感謝申し上げます。また、5月27日に保護者メールにて消毒用スプレーの容器を譲っていただけなかったかお願いしたところ、多くの方に学校にお持ちいただき、十分な量を確保することができました。消毒アルコールを寄付してくださったご家庭もあり、大変感謝しております。新しい生活様式に基づく感染防止対策を講じる上で、アルコールは大変重要です。有効に使わせていただきます。本当にありがとうございました。

さて、4月当初より里中だよりやホームページを通してお伝えしましたが、私の教育信条は「グリット」の育成です。日本語では「やり抜く力」と訳されます。これは、アメリカの心理学者、アンジェラ・ダックワースの研究から導き出されたもので、様々な分野で成功を収めている人は共通して、自分が定めた夢や目標に向かって結果が出るまでやり抜く力、つまり「グリット」の高い人だという理論です。6月1日の始業式では、「グリット」について、次のような話をしました。

### 『学校長式辞一部抜粋』

平成10年の夏の高校野球青森県大会でA高校は、甲子園に出場したことのあるB高校と対戦することになりました。5回を終わって93対0。A高校の監督は、選手に次の3つの中から1つを選ぶように提案しました。「①棄権する ②続ける ③監督に任せる」

監督は棄権するつもりでしたが、3年生のひとりが、「やめてもいいけど、これまで応援してくれる人がいたし、続けた方がいいんじゃないか」と言ったので、全員が続ける気持ちに傾いていたそうです。結局、A高校は、122対0で7ゴールド負けでした。

当時6人いた1年生で野球部をやめた生徒は一人もいませんでした。その中のある生徒は、3年生になって国立秋田大学資源工学部に進学したいと考えました。A高校から大学に進学する生徒は少なく、国立大学理系は開校以来一人もいませんでした。この生徒は、最後の大会前は部活の後学校に残って、引退後の夏休みも学校に行き、受験勉強を続けました。2学期に入ってから、放課後一人で教室に残って勉強し、翌日朝早く学校に行き勉強するという毎日を過ごしました。その後、秋田大学資源工学部に合格しました。彼は「グリット」を持っています。

今こそ私たち一人ひとりの「グリット」が試される時です。休校中の3カ月間、自分の将来を切り拓くために家庭学習を欠かさなかった生徒や大会に向けて自主練習に励んでいた生徒もいると聞いています。「ピンチを前向きに捉えよう」と言うのには無理があると承知しています。しかし、どんな状況においても、夢や目標を持ち、最後までやり抜くことを願っています。「グリット」は才能を越え、大きな結果を出すからです。